

## 編集 後記

漸く秋めいて参りましたが、今年は過去に比べて飛び抜けて暑い夏となり、日本だけでなく世界中で記録を更新しています。そのような酷暑の中、研究でインタビューを行うために私が一人暮らしの高齢者宅をお邪魔した時のことです。冷房はないのに窓は締め切られ、汗が止まらないくらい蒸し暑さを感じる室内環境でした。しかし、驚くべきことに、その高齢者の方は涼し気な様子で「この部屋はそこまで暑くないと思いますが、扇風機をつけましょうか」と私に尋ねられたのです。一般的に高齢者は暑さを感じにくいいため熱中症になりやすいといった、教科書にあることを実感する出来事でした。近年の気候変動は、環境や経済だけでなく、当然、健康にも影響を及ぼすため、熱中症などの公衆衛生上の課題が増加することを懸念しております。

さて、今月号は、特別論文1編、原著3編、公衆衛生活動報告1編を掲載しています。特別論文では、日本公衆衛生学会に設置された平成29～30年「公衆衛生看護のあり方に関する委員会」の成果をまとめています。米国の公衆衛生専門家と公衆衛生看護のコンピテンシーを翻訳し、共通点と相違点が論じられています。

また、原著論文として、高齢者の腰痛の予防・改善策の検討に向けて、地域在住高齢者の腰痛の有無と身体活動および座位時間の関連について検討した論文では、身体活動が腰痛の有無と関連することが報告されています。「健康支援型」道の駅を利用した高齢者の主観的健康観不良の減少を検証したユニークな論文は、健康格差の是正に向けて「自然に健康になれる環境づくり」の一方策として行われた研究です。また、全国の養育里親を対象とした研究では、活動満足感と活動負担感に関連する要因を検討し、児童相談所の丁寧な関り等が重要であることが示されています。公衆衛生活動報告では、高齢者施設を対象としたCOVID-19の川口市の研修の取組みについて紹介されており、クラスター発生の予防策に活かせる内容です。

いずれも公衆衛生学の蓄積に限らず実践の一助となるような示唆に富んだ論文です。今後もより多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。 (田口敦子)

## 次号予告 (第70巻・第11号)

### 原著

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 第6波：  
小児の疫学調査……………森元真梨子，他  
自治体保健師のための地区活動に関する評価尺度  
の開発：地区活動の内容，保健師の認識，組織  
環境に着目して……………永井智子，他  
男性労働者の休養を評価する尺度の開発  
……………谷野多見子，他

### 資料

- 精神障害者が認識する権利擁護支援が必要な状況  
と対処方法……………蔭山正子，他  
新型コロナウイルス感染症対応と母子保健指標と  
の関連……………寺川由美，他